

年 組 名前：

問1

「デジタルノマド」とは、なにを活用して、なにをしながら、なにをする人を指しますか。

・なにを活用

・なにをしながら

・なにをする

問2

田中教授のプロジェクトは、ウェブサイトで、なにを紹介していますか。

問3

田中教授は、だれにウェブサイトを見てもらいたいと、話していますか。

問4

山梨がデジタルノマドの受け入れとして、「非常に可能性がある地域」としている理由を教えてください。

# 「デジタルノマド」活動支援

## 山梨大教授 サイト開設 制度紹介



山梨大生命環境学部の田中敦教授「観光政策」らが中心となり、IT技術を活用して世界各地を渡り歩きながら働く「デジタルノマド」の受け入れ推進を図るプロジェクトを始めた。デジタルノマドは3月末から日本が特定活動として最長半年間の在留資格が与えられることになり、田中教授は「世界に約2500万人いるとも言われる大きな市場」と注目。制度の紹介や先進地の事例などを紹介するウェブサイトを用意した。

プロジェクトは「デジタルノマド&ワーケーション」の現実と新たな価値の創造「ボ」と名付け、デジタルノマドと日本をつなぎ、働く場所 国は訪日客数の拡大に向けて、デジタルノマドに最長6カ月の在留資格を認める新制度がスタート。県の「やまなし観光推進計画」でも「デジタルノマド、IT技術を活用し、国内外を問わず場所に縛られずに「ノマド（遊牧民）」のように旅をしながら仕事をする人たちが指す。旅をしながら手がける仕事はウェブライターやマーケティング関係など。山梨大の田中敦教授によると、デジタルノマドは世界に約3500万人いるとの統計がある。

デジタルノマドに関するプロジェクトを立ち上げた山梨大の田中敦教授＝山梨大甲府キャンパス



田中教授は「地域住民の理解や国内の受け入れ環境の整備はまだ整っていない」として、デジタルノマドに関する専門家の寄稿や国内外のデジタルノマドのデータ、制度の解説などをまとめたウェブサイトをオープンした。「特に行政に関わる人に見てもらいたい。随時情報は更新していく」と語る。

また、デジタルノマドを観光客として受け入れるだけではなく、「地域のひととの交流が大切。うまく連携できれば地域の活性化にもつながる」とする。特に山梨は外国人に人気の富士山があり、東京と隣接していることから、「非常に可能性がある地域だ」と考えている。

(2024年4月13日付 山梨日日新聞7面)